

# エピソード30

「こんなこと、先生に  
聞いてもいいんですか」



なみちゃん

小学校教師として25年以上の経験が  
あります。  
エデュサポネットのファシリテーターです。



小学校の一年生を担当した時の  
経験をお聞きします。

一年生に入学してから、毎朝、学校の玄関  
で泣いているまゆ子さんを見かけました。

どうやら、お母さんと離れるのが嫌で  
泣いているようでした。





先生はどうしたのですか。

一年生担任の私は、入学したばかりの一年生を、教室で迎えなければなりません。

まゆ子さんに会えたときは、声をかけると教室まで一緒に行くことができました。





教室での、まゆ子さんの  
様子はどうでしたか。

教室に入ってしまったえば、面倒を見てくれる  
6年生と、楽しそうにしていました。

その後も、お友だちとにこにこ過ごし、  
泣くことはありませんでした。





その後どんなことがありましたか。

まゆ子さんも、教室に来られるようになってきたと安心していました。

一月ほど経って家庭訪問がありました。そのとき初めて、まゆ子さんのお母さんとゆっくり話をすることができました。





お母さんはどんなお話をされましたか。

まゆ子さんが、登校時に相変わらず泣いて手を離さず、仕事に遅れるので、校門のところで手を振り切って来ること。

それは幼稚園の時から続いていて、発達に問題があるのか、病気なのか、とても心配している、と話してくれました。





先生はどう対応したのですか。

お母さんが、毎朝ご苦労されていたことに気づかず、とても申し訳なく思いました。

それで「連絡してくださったらよかったのに」とお話ししました。







お母さんはどんな様子でしたか。

とても驚いたように、「そんなことで先生に連絡してよかったのですか。」

私は家庭訪問で先生に話そうと、ずっと待っていました。」とおっしゃいました。







まゆ子さんのお母さんの言葉から、  
先生はどんな気づきがありましたか。

初めてのお子さんで、初めての小学校。  
保護者は、私が思っている以上に  
いろいろ不安だったのだと気づきました。

まゆ子さんのお母さんだけでなく、全ての  
保護者に、どんな小さなことでも心配な  
ことはお知らせください、と伝えました。





## なみちちゃんの一言

- 保護者の中には、先生に気軽に声をかけられない保護者もいます。声をかけてくれる保護者には対応できますが、声なき声はなかなか聞こえてきません。
- どんな小さなことでも話してほしい、というオープンな態度が保護者の安心感につながります。
- 家庭訪問や保護者面談も、保護者から声を聞ける貴重な機会です。

お・し・ま・い



イラスト 尾上樹里  
(北海道教育大学 大学院生)